

e. B型肝炎

B型肝炎ウイルスは、ヒトの肝臓に慢性持続性感染を起こし、そのうち10-15%が慢性肝炎、肝硬変、肝細胞癌を発症することが知られています。感染はおもにB型肝炎ウイルスを含む血液あるいは血液成分との直接接触によって生じます。母親がB型肝炎ウイルス保有者（キャリア）である場合、妊娠中あるいは出産時に母親の血液によって胎児あるいは新生児がウイルスの曝露を受け感染が生じます（母子垂直感染）。また、最近では性感染症の一つとして重要視されており、同性愛者、麻薬常習者での流行も知られています。

さらに、血液に接する機会が多い医療従事者などでは、針さし事例によって感染する場合があります。医学生、看護学生が実習中に感染したケースも報告されています。

i. B型肝炎ワクチン

B型肝炎はワクチンで予防できる疾患の一つとして知られています。初めてワクチンを接種する場合、2回の接種（0週、4週）では抗体価が十分上昇しないことが多く、ブースタ効果のため3回目の接種（20-24週）が必要です。

ii. 予防接種スケジュール

通常、0.5mLずつを4週間隔で2回、さらに20～24週を経過した後に1回0.5mLを皮下または筋肉内に接種します。

4月 入学時の健康診断でB型肝炎の抗体価（HBs抗体）を測定

5月 接種申し込み（希望者）

9月 1回目接種

10月 2回目接種

2月 3回目接種

3月 抗体価の確認

通常、2年時から本格的に始まる病院内での実習に合わせて、一年目の秋から計画的に接種します。入学時の抗体価を各自しっかり確認のうえ、希望者は忘れずに申し込んでください。